

7月になりました。

令和元年も残す所半年切ってしまいました。

まだ令和という言葉に違和感がありますがこれももう少ししたら慣れてしまうかな？

人間は忘れていく事で生きていけるのだ・と昔聞いた記憶があります

高齢になるとなぜか「さっきの事」や「昨日の事」は覚えていなくても子どもの頃のことはそれはそれは鮮明な描写と共に語って頂けます。

脳の機能説明としては「エピソード記憶」と言い、残り少ない人生を無意識の内に振り返る心(脳)から溢れ出てくるのではないかと私は推測しています。

私は杉並南西部久我山で生まれ、還暦過ぎた今までこの地で暮らしています。

私の子どもの頃の久我山は名古屋市内から嫁いだ母や伯父の結婚式のために小学生で久我山に来た事がある夫には「ここが東京？違うでしょ?!」と驚かれる程「田舎感満載の所でしたそんな町とは言えないくらいの「街」でしたが、本屋は南北に1店ずつ、2店営業していました。南側のその名も「久我山書店」が我が家の御ひいき店。父の給料日、お誕生日は、いつも久我山書店のカバーがついた本をもらう事ができて、うれしかったものです。支払いはすべて月末清算。母は暮らしの手帳や装苑を楽しみにしつつ、支払いが多いと「今日は納豆よ」と言いました。そんな家族の何気ない本を通じた思い出がいまとても心に熱いものをこみあげさせています。

7月1日久我山南側商店街を通りました。するとあるはずの「久我山書店」がない!!!

グレーのシートに覆われた解体現場だけ。「つぶれたの???

跡取りのお兄ちゃんはおじさんでしたが亡くなったけど、みんなで頑張ってたよね。

電鉄系の書店が駅にできるとお店に行った時も「やめないわよ」って言ってたよね!



どうして?どうして?・・・と茫然とし、「ハッと」気がついたので。

私この数年久我山書店ではほぼ本らしい本を買っていませんでした

駅中本屋や吉祥寺で購入。さらに・・・あろうことか・・・それぞれのポイントも貯めています。

文字離れ、万引き、ネット購入と書店を取り巻く環境悪化は聞いて知っていました。

でも久我山書店が無くなることとは結びつける事はしませんでした。そう・・・私の中では

時代や環境とは関係なく「久我山書店は永遠にあるもの」と思いこんでいたのだと思います。

私馬鹿?全くおバカです。もちろん私が1人月数百円数千円?購入したからと行ってどうにかなる問題ではなかったとは思いますが・・・もったんかね・・・虚しい。

「大切なもの」「身近にありすぎて気にもしていないもの」それがどれだけ自分の中の心に深く刻まれていたものかも意識せず、それが壊れてしまった事を知って・・・悲しいです。

梅雨の雨雲が重く・・・さらに重く私の頭上に垂れこめています。

こんな7月のはじまりでした。